



ナ・デックスレポート  
第62期 中間報告書  
平成23年5月1日～平成23年10月31日

証券コード：7435

先端技術で未来を拓く  
接合のナ・デックス



投資家のみなさまにおかれましては、日頃より当社事業へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

平成23年4月21日付の新経営体制発足から8ヶ月余りが経過しました。東日本大震災による影響が今なお続く中で、世界的な景気の減速傾向、欧州における金融危機、タイの洪水被害など、世の中の状況は目まぐるしく動き続けています。当社はそうした変化に対応し、持続的な成長発展を遂げていくためのステップとして、来期から3ヶ年中期経営計画を始動いたします。当期はその準備期間と位置付け、計画の策定とともに、人材および設備への投資を進めてまいります。

投資家のみなさまにおかれましては、引続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

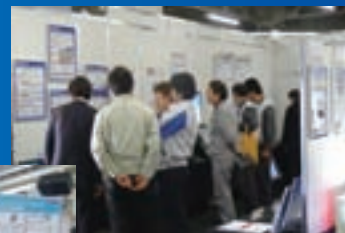
代表取締役社長 **坂井 有**

## TOPICS

### ナ・デックス プライベートショー2011開催報告

当社では、平成23年11月30日から平成23年12月2日までの間、今回で2回目となるプライベートショーを当社技術センターにて開催いたしました。

「省エネ」をテーマとした今回のプライベートショーでは平成23年4月に東京ビッグサイトで行われたレーザー加工技術展に参加した際の出展内容を再現するとともに、スポット溶接やレーザー加工の実演、そして各分野のスペシャリストの方々を招聘しての講演会などを実施、期間中は取引先様をはじめ多くの方々にご来場いただき、盛況のうちに閉幕となりました。



省エネ関連商品を展示



来場者に自社製品を説明

# 成長投資を実施し、利益重視による発展を目指します。

当上半期の事業環境と、  
国内の営業状況についてお聞かせください。

国内企業の生産活動は、震災の影響による低下から想定より早く回復しつつあり、持直しの動きを示しましたが、その後の急激な円高進行などを受け、自動車関連業界では大型の設備投資案件が見直される状況となっております。

その中で当社は、『人工知能』を持った新型抵抗溶接制御装置「IWC6」を投入するなど、将来に向けた製品開発に力を入れてまいりました。

一方、非自動車分野では、電気部品関連の販売がリーマンショック以前の水準に戻ってきており、また震災被害によるサプライチェーンの停滞をカバーすべく、海外ネットワークを通じた商品供給を行いました。それに伴い、品質保証部を新たに設置し、仕入商品に対する品質管理を強化しております。

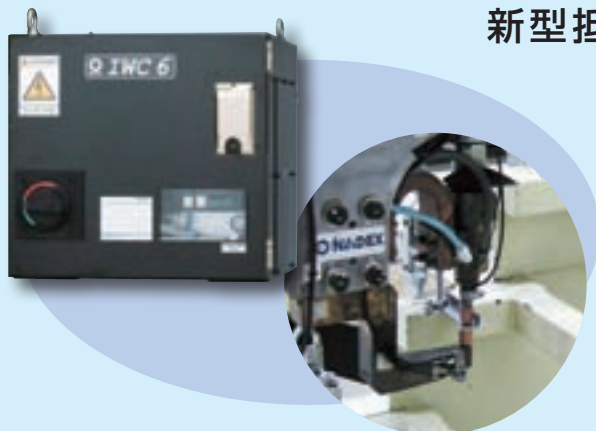
当上半期の連結業績は、売上高が計画値を下回ったものの、利益面では当初の予想を大きく上回る増益を果たしました。これは主に海外事業における利益改善が貢献したものです。

※業績の詳細については、6～8頁をご参照願います。

## NEW PRODUCT

### 『人工知能』を持った 新型抵抗溶接制御装置

# 「IWC6」



前期より開発を進めていた新型抵抗溶接制御装置「IWC6」をこのたび発表いたしました。簡単な設定・操作で、抵抗溶接の品質を飛躍的に高めると同時に、省エネ性能にも優れ、生産ラインの省力化によるコスト削減効果をもたらします。

最大の特長は『人工知能』による適応制御。良品の溶接状態を再現し、最適条件での溶接を行うなど、スパッタ(スラグや金属粒の飛散)の発生要因を解決いたします。また、トレーサビリティ機能の搭載により、溶接データを保存・管理・解析することで、スポット溶接の信頼性と品質を向上させます。

## 海外事業の状況については いかがでしょうか？

当上半期は、自動車メーカーの海外生産拡大を受け、東南アジア向けのゲートウェイとして展開するタイ事業が大きく伸びております。中国事業も堅調ですが、日系自動車メーカーへの販売に加え、今後は現地大手ローカルメーカーへのアプローチも強めていく必要があります。

タイでは7月に、チャオプラヤー川流域およびメコン川周辺で洪水が発生し、日系企業の生産拠点にも大きな被害を与えております。しかし、バンコクの当社子会社NADEX ENGINEERING CO.,LTD.およびNADEX (THAILAND) CO.,LTD.は幸い被害を免れました。下半期以降、自動車生産の復旧支援を最優先し、業界の一員として寄与してまいります。

海外事業の新たな動きとして、8月にNADEX USA CO.,LTD. (米国ミシガン州) を設立いたしました。

## グローバル展開を 加速し、 5ブロック体制を構築



当社は今後、海外の製造販売拠点を5ブロックに分けて拡充し、地域ごとに異なるニーズに対応していく考えです。

中国地域では、那電久寿機器（上海）有限公司による現地事業が堅調に推移しており、引続き拡大を目指します。

東南アジア地域では、NADEX ENGINEERING CO., LTD.およびNADEX (THAILAND) CO.,LTD.を構えるタイ・バンコクをゲートウェイとして、今後、インドネシア・ジャカルタに現地法人PT.NADESCO INDONESIAを、インド・グルガオンに現地事務所を設置し、周辺国への

販路を拡大してまいります。

米州地域では、Welding Technology Corp.を中心とした従来の北米展開に加え、8月には米国・ミシガンにNADEX USA CO.,LTD.を、さらにメキシコ・ケレタロにも現地事務所を設置する予定であり、南米を販売ターゲットに加えた営業展開を推進してまいります。

そして、欧州・ロシア・アフリカ地域へは、来期中の拠点進出を計画しております。

従来の米国およびカナダに、メキシコとブラジルを販売ターゲットに加え、抵抗溶接制御装置の米州展開を推進してまいります。

そして下半期は、インドネシアの販売子会社としてPT.NADESCO INDONESIAをジャカルタに設立する他、インドおよびメキシコに事務所を開設し、グローバル展開をさらに加速してまいります。今後は、日本を含む極東地域、中国地域、東南アジア地域、米州地域、来期からの進出を予定している欧州・ロシア・アフリカ地域の5ブロック体制を構築し、海外売上高比率を現在の約10%から、近い将来には30%に拡大していく考えです。



### 国内営業における 今後の展開について伺います。

当社は近年、経営効率化の観点から国内営業拠点の集約を進めてまいりましたが、今後は主要顧客への密着度をコンパクトな形で高めるべく、営業所の再配置を実施してまいります。自動車メーカーにおける海外生産シフトの拡大を受け、かつての機器搬入・メンテナンス機能を備えた営業拠点体制から転換し、情報収集および海外ネットワークとの連携を専任する少人数の営業所を、当期中に主要顧客の拠点地域に設置していく予定です。

国内営業におけるもう一つの注力展開は、当社技術センター（愛知県北名古屋市）で年2回開催するプライベートショーです。「接合のナ・デックス」というブランドの確立と認知度向上に向けて、「スパッタレス」「省エネ」「異種材料の接合」といったテーマを毎年定め、当社が提供する高度な接合技術をアピールしております。現物実演による情報発信機能を活かし、幅広い産業のお客様に対する訴求機会として、積極的に活用してまいります。

## 下半期の見通しと 取組みについてお聞かせください。

当期は、震災による影響が懸念されておりましたが、上半期の段階で計画以上の利益を確保することができました。下半期からは、国内生産活動の回復が本格化しており、通期業績における利益の上積みが期待されます。具体的な数値として、売上高200億円、営業利益5億1千万円、経常利益5億7千万円、当期純利益3億5千万円と、増収増益を予想しております。

下半期の取組みとしては、来期から始動する3ヶ年中期経営計画の策定とともに、営業拠点と生産設備の拡充、人材確保およびIT関連への投資を実施し、成長路線に転換していくための礎を築き上げてまいります。

## 投資家のみなさまへの メッセージをお願いします。

当社は、過去の2期連続赤字から前期に黒字回復を果たし、当期から増収増益基調を維持できる見通しとなってまいりました。同時に、財務健全性の点においても著しい体質改善を果たしております。

今後は当面、設備投資面を中心に経営資源の投入を継続し、利益重視による成長路線を確立していく考えであります。そして、利益の拡大を踏まえて、一定の配当性向に基づく形で配当増額を目指し、投資家のみなさまのご期待に応えてまいりたいと存じます。

投資家のみなさまにおかれましては、これからも当社事業への長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

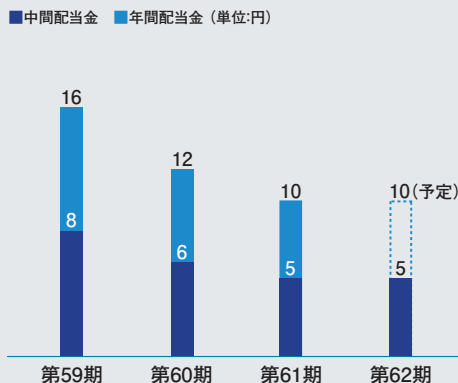
## 株主還元方針に関する考え方

当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針をふまえつつ、当事業年度の業績を勘案して、年間としては1株につき10円(うち中間配当5円)の配当とする予定であります。

配当金の推移



当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災の影響により低下した生産活動が、サプライチェーンの想定よりも早い回復に伴い持直しの動きが見られるものの、欧米の財政問題に伴う円高の進行、タイでの洪水被害など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要得意先である自動車関連企業につきましては、震災などの影響による生産の落込みから回復しつつあり、設備投資についても過剰感は依然として残るものの、下げ止まりつつあります。

このような経済環境のもとで、当社グループは、非自動車分野への売上拡大を図るとともに、電気制御機器・部品および自社製品の強化に取組み、概ね計画どおり推移しており、機械設備の投資抑制の影響を最小限に止めることができました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は83億7千3百万円と前年同四半期に比べ2億2千3百万円(△2.6%)の減収となりましたが、営業利益は、貸倒引当金戻入額1千7百万円の計上などにより、2億4千8百万円と前年同四半期に比べ4千7百万円(23.8%)、経常利益は、為替差損3千3百万円の計上などがあったものの、持分法による投資利益5千3百万円の計上などにより、2億9千8百万円と前年同四半期に比べ1億3千5百万円(82.4%)、四半期純利益は、投資有価証券売却益6千7百万円の計上などにより、2億6千6百万円と前年同四半期に比べ1億7千6百万円(195.2%)とそれぞれ増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

### 日本

日本につきましては、非自動車分野への売上拡大を図るとともに、電気制御機器・部品および自社製品の強化に取組み、自動車関連企業向けの機械設備の投資抑制の影響を最小限に止めたことにより、売上高は80億6千4百万円と前年同四半期に比べ1億1千2百万円(△1.3%)の減収となり、営業利益は、貸倒引当金戻入額の計上などにより1億6千8百万円と前年同四半期に比べ1千2百万円(7.9%)の増益となりました。

### 中国

中国につきましては、自動車関連企業において日系企業向け機械設備が、東日本大震災の影響で延期となりましたが、現地企業向けの受注が順調に推移したことにより、売上高は1億4千4百万円と前年同四半期に比べ5百万円(4.2%)の増収となり、営業利益は、経費の増加などにより7百万円と前年同四半期に比べ8百万円(△54.3%)の減益となりました。

### タイ

タイにつきましては、日系の自動車関連企業向けの設備据付工事の受注が順調に推移し、また、自社製品の強化に取組んだことなどにより、売上高は2億2千5百万円と前年同四半期に比べ1千6百万円(7.7%)の増収となり、営業利益は、経費削減などにより3千3百万円と前年同四半期に比べ1千1百万円(49.1%)の増益となりました。

# 四半期連結財務諸表

## 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

区分	前 期 (平成23年4月30日現在)	当第2四半期 (平成23年10月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	11,047	10,509
固定資産	4,763	4,099
有形固定資産	2,750	2,140
無形固定資産	300	259
投資その他の資産	1,712	1,699
資産合計	15,810	14,609
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,511	6,223
固定負債	346	268
負債合計	7,857	6,492
<b>純資産の部</b>		
株主資本	8,068	8,287
資本金	1,028	1,028
資本剰余金	751	751
利益剰余金	6,442	6,663
自己株式	△154	△154
その他の包括利益累計額	△119	△177
その他有価証券評価差額金	93	6
為替換算調整勘定	△212	△183
少数株主持分	3	6
純資産合計	7,953	8,117
負債純資産合計	15,810	14,609

## 四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

区分	前第2四半期 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
売上高	8,597	8,373
売上原価	7,385	7,167
売上総利益	1,211	1,206
販売費及び一般管理費	1,011	958
営業利益	200	248
営業外収益	73	99
営業外費用	110	48
経常利益	163	298
特別利益	14	73
特別損失	18	27
税金等調整前四半期純利益	159	344
法人税、住民税及び事業税	4	6
法人税等調整額	63	67
法人税等合計	67	74
少数株主損益調整前四半期純利益	92	269
少数株主利益	2	2
四半期純利益	90	266

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

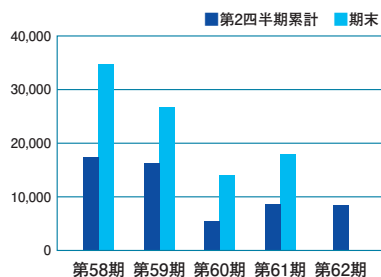
区分	前第2四半期 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△505	125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△290	825
財務活動によるキャッシュ・フロー	△393	△601
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△3
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,196	346
現金及び現金同等物の期首残高	3,280	2,543
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,084	2,890



# 連結財務ハイライト

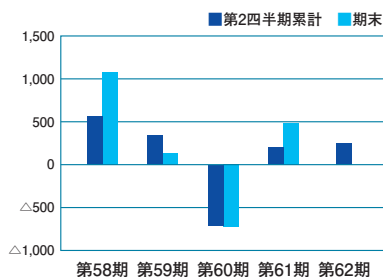
## 売上高

(単位：百万円)



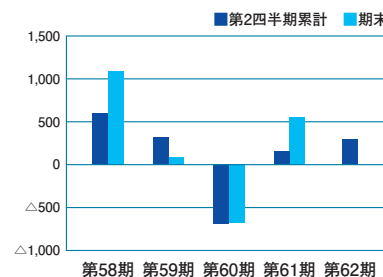
## 営業利益又は損失

(単位：百万円)



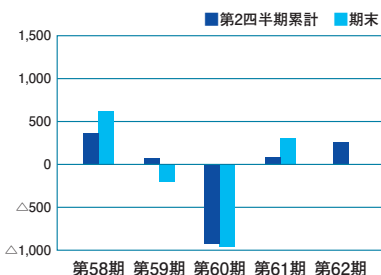
## 経常利益又は損失

(単位：百万円)



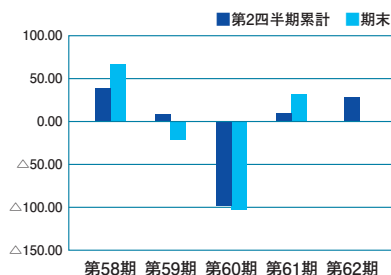
## 四半期(当期)純利益又は純損失

(単位：百万円)



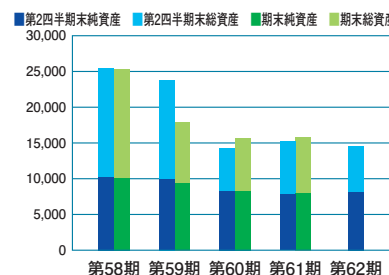
## 1株当たり四半期(当期)純利益又は純損失

(単位：円)



## 純資産／総資産

(単位：百万円)



区分	第58期 平成20年4月期		第59期 平成21年4月期		第60期 平成22年4月期		第61期 平成23年4月期		第62期 平成24年4月期	
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末
売上高 (単位：百万円)	17,361	34,808	16,284	26,719	5,405	14,009	8,597	17,985	8,373	—
営業利益又は損失 (△) (単位：百万円)	565	1,074	345	136	△709	△726	200	484	248	—
経常利益又は損失 (△) (単位：百万円)	599	1,093	316	83	△683	△681	163	556	298	—
四半期(当期)純利益又は純損失 (△) (単位：百万円)	362	626	79	△203	△922	△965	90	303	266	—
1株当たり四半期(当期)純利益又は純損失 (△) (単位：円)	38.88	67.18	8.53	△21.78	△98.96	△103.59	9.68	32.58	28.60	—
純資産 (単位：百万円)	10,227	10,137	9,880	9,356	8,305	8,293	7,753	7,953	8,117	—
総資産 (単位：百万円)	25,452	25,353	23,778	17,912	14,226	15,722	15,149	15,810	14,609	—

## 会社概要

商号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設立	昭和25年10月
資本金	1,028,078千円
上場金融商品取引所	大阪証券取引所JASDAQ (スタンダード) (証券コード:7435)
従業員数	304名(連結)、140名(単体)

## 役員

代表取締役社長	坂井 有
取締役常務執行役員	福島 國彦
取締役常務執行役員	太田 善教
取締役執行役員	渡邊 修
取締役執行役員	高田 寿之
常任監査役(常勤)	武田 吉保
監査役	加藤 正樹
監査役	伊藤 豊彦
執行役員	遠藤 一行
執行役員	森下 宗春

(注) 監査役加藤正樹氏および伊藤豊彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 株式の状況

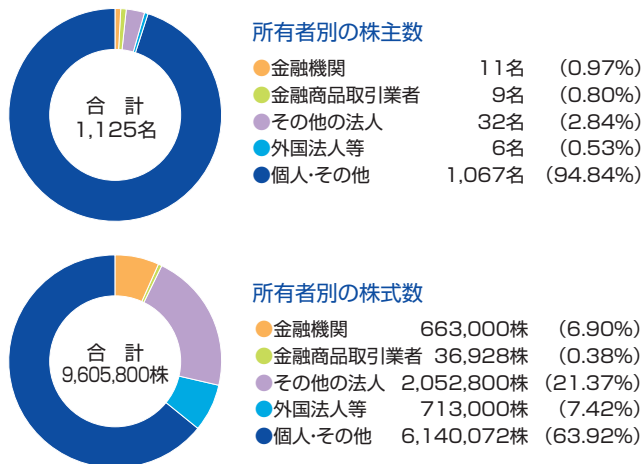
発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式280,760株を含む)
株主数	1,125名

## 大株主

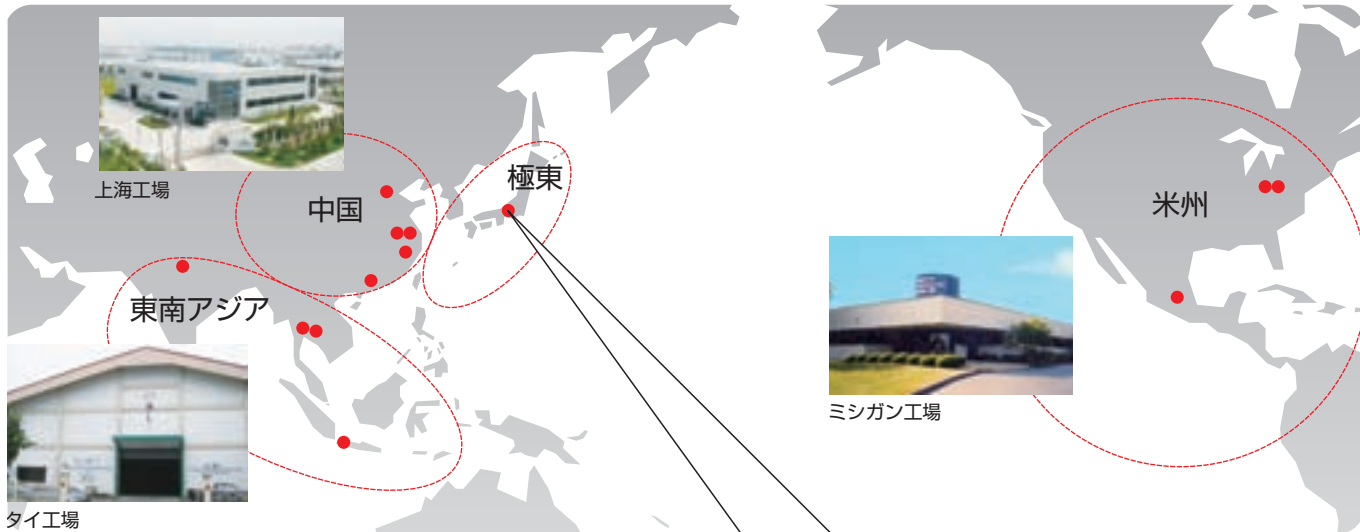
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.01
ピー・イー・フォー・フィリティー・ロブライ・ストック・ファンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	650,000	6.97
古川 佳明	312,000	3.34
竹田 和平	287,000	3.07
古川 美智子	285,000	3.05
古川 雅隆	205,000	2.19
ナ・デックス社員持株会	191,000	2.04
株式会社三井住友銀行	152,000	1.63
株式会社三菱東京UFJ銀行	144,000	1.54
尾崎 博明	144,000	1.54

(注) 持株比率は、自己株式(280,760株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

## 株式分布状況



## 拠点



## 国内

株式会社ナ・デックス

本社：名古屋市中区

東京支店：さいたま市大宮区

大阪支店：大阪市淀川区

技術センター：愛知県北名古屋市

株式会社ナ・デックスプロダクツ：岐阜県可児市

その他の拠点：仙台、宇都宮、小山、熊谷、横浜、  
浜松、岡山、広島、北九州

## 海外

米国：ミシガン州

中国：上海、広州、天津、杭州

タイ：バンコク

開設予定：インドネシア、インド、メキシコ

